

出品者の声 別紙特集記事「満州からの引き上げ記」をお読みください

昭和20年8月、日本が負けたと聞いた日、満州での私たちの暮らしは音を立てて崩れました。
…戦争が人々の生活と命をどれほど大きく変えるのかを今に伝えたい。

吉田栄梢

すはっぴアートセトラ



アンテナダン開催

第72回 広島平和美術展

搬入 2026年7月28日(火) 受付 10:00~12:00
 展示 上記同日 13:00~18:00 みなさま、展示作業のお手伝いをよろしくお願いいたします
 会期 7月29日~8月3日 10:00~18:00 最終日のみ16:00閉場
 7月29日10:00~10:30 オープニング 10:30 開場
 8月3日 16:00 閉場 ※オープニングセレモニー 広島少年合唱隊 出演
 会場 広島県民文化センター 地下展示室 (広島市中区大手町1丁目5-3)

主催:広島平和美術協会(問合せ先:事務局 広島市中区職町6-15-401 好永方、080-3872-2768)
 後援:広島県・広島県教育委員会/広島市・広島市教育委員会/(公財)広島平和文化センター/
 (公財)ひろしま文化振興財団/(公財)広島市文化財団/中国新聞社/NHK広島放送局/中国放送/
 広島テレビ/広島ホームテレビ/テレビ新広島/広島エフエム放送/NPOひろしまインターネット美術館

編集後記

世界の各地では戦争や紛争が終わることが有りません。
 被爆80年を超えても、まだまだ核戦争の恐ろしさは消えません。
 アートは想像、創造すること。制作出来ることがどれだけ有難いことか。
 まだ大丈夫、青い空に向かって深呼吸、手を取りあって進んで
 行きましょう。 好永 良子

第71回 広島平和美術展報告

入場者3,505人
 出品者
 絵画116、書35、工芸・彫刻他20
 写真17、いけばな55、県外23
 海外11、長崎5、計282名



平和の壁にあはたの花一輪を!
 第72回 広島平和美術展ニュース

72nd HIROSHIMA PEACE ART EXHIBITION

2026年5月発行

広島平和美術展の趣旨

いつの時代においても戦争は文化の破壊者でした。核戦争がはじまれば、人類の破滅を意味します。
 芸術が人間のためにある以上、私たちは芸術を愛し、戦争を否定し、戦争につながるすべての政策、
 企て、準備、実験などに反対します。特に広島に生きる私たちにとって、それは強い共通の願いです。
 8月6日を中心に集まり、作品を通して世界平和への願いを表すために、総合美術展を開き、
 世界恒久平和を実現します。 1955.8

広島文化賞受賞

広島平和美術協会は、県内の
 地域文化の向上、普及に貢献し
 た団体として、令和7年度の
 広島文化賞を受賞いたしました。



受賞資料



「71年間広島平和美術展を開催し続け、地道に続けてきた活動が広島文化賞によって評価された
 ことはたいへん光栄です。

この賞は、すでに故人となられた創立者や継続発展されてきた先達方にも与えられるものであり、
 私たちは彼らの信念を受け継ぎ、次世代へとバトンを繋ぐ覚悟と勇気を頂きました。」

会長ごあいさつ

広島平和美術展は、被爆10年後の1955年に平和を希求する広島の画家たちによって第1回展を
 開催し、継続を意図して広島平和美術協会を組織いたしました。以後その趣旨を受け継ぎ、無審査
 による総合美術展を今日まで毎年開催しております。長年にわたり美術展を推進してきたことが
 評価され、広島平和美術協会は昨年度の広島文化賞を受賞いたしました。この受賞に励まされ、
 本美術展を継続発展してまいり所存ですので、今後とも皆様の参加、応援をよろしくお願い申し上げます。

広島平和美術協会・会長 福長 弘志

メッセージ



広島県知事 横田 美香

「第72回広島平和美術展」に当たり、広島県民を代表してメッセージをお送りします。

本美術展は、あらゆる戦争犠牲者の冥福を祈って開催されるもので、広島平和美術協会におかれましては、本美術展の開催を通して、核兵器廃絶や国際友好、世界恒久平和への切なる願いを発信してこられたことに、心より敬意を表します。

美術には、国境や言語、人種など様々な違いを超えて、感動を生み出し、人と人をつなげる架け橋となる力があります。本美術展を御覧になった方々が、平和を希求する心に感動され、その感動が、平和実現への活力となりますことを願っております。

結びに、本美術展の御盛会を祈念いたしまして、メッセージといたします。

メッセージ



広島市長 松井 一寛

「第72回広島平和美術展」の開催に当たり、広島市民を代表してメッセージをお送りします。

美術作品を通して核兵器廃絶と世界恒久平和への願いを多くの方に届けてこられた本美術展は、同様の思いの下、「国際平和文化都市」を理想の都市像として掲げ、「平和文化」の振興に取り組んでいる本市にとって、大変心強い支えとなっており、関係者の皆様の長年にわたる御努力に対し、深く敬意を表します。

美術を始めとする文化芸術は、言葉や国籍の違いを超えて感動を分かち合い、共感を生み出す力を持っています。平和への願いが込められた本美術展を通じて、御来場の皆様が平和への思いを共有し、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が広がっていくことを期待しています。

結びに、本美術展の御盛会を祈念して、私のメッセージとさせていただきます。

オープニングセレモニー



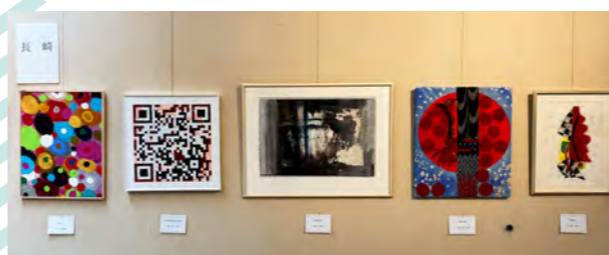
テープカット



オープニング

広島平和美術展によせて

長崎から 内藤 修子



2025年は広島長崎への原爆投下から80年となる。7月27日10時広島平和美術展オープン会場に私はいました。開会式の後には展示会場へと進みました。華道アートは市民と文化活動が対となり、各会場へといざなっていました。会場の奥へと進むと、美術は平和でなければならないと思う作品が待っていて鑑賞の醍醐味でした。ながさき8・9平和展企画委員にかかわり47年です。広島平和美術展出品参加 第1回目は45年前の旧広島県立美術館でした。これからも広島と長崎の文化交流が続いていきます様に、平和の道標となるよう努力していきたいと思えます。

海外から Halfdan Halbirk (フランス)



Bo Halbirk集版画アトリエの柱のひとつは、そこで働くアーティストたちの多文化性です。私たちのアトリエで活動するアーティストの多くが戦争を経験し、その作品に深い影響を受けてきたため、広島ピース・アート展に作品を提案することは私たちにとって自然な選択でした。今も母国での戦争の影響を受け続けているアーティストもいます。私たちは、世界における暴力への解決策のひとつは文化であると確信しています。だからこそ、私たちが共有する価値観を持つこの展覧会に参加できたことを、心から嬉しく思います。

PIC UP How I feel now



いけばな 合作 吉田 栄梢 山下 映泉 森田 篁子 佐々木 裕幸

広島市の花は1973年に「キョウチクトウ」と制定された。原爆投下後の焦土にいち早く咲き、復興に向けて努力していた人々に希望と力を与えたといわれている。暑い夏の日差しの下で、濃い緑の葉の中に赤や白の花をつける。今回の私達のテーマそのものでした。赤・炎のヘレコニアと、緑・平和のヤツデの葉を、黒・焦土の枯れ枝と合わせる、全体 の形は、一本のキョウチクトウ。あの日から80年過ぎた今も。市内のあちらこちらにこの花が咲く。この花を見かけると、その当時ここで生活していた人々のことをそっと想うことがある。最近の世の中はとて平穏であるとは言い難いが、この美術展がそうであるように、美しいものを見たり感じたりすることで、その不安を少しでも拭うことができたらと思う。

佐々木 裕幸 記



いけばな 高校生 森川 茉衣亜

この度、平和美展に初めて参加させていただきました。たくさんの方が平和に関心を持ち心にかけていることを実感しました。そして、それぞれのもつ「芸術」を通して、目に見える作品にしたことで、より多くの方に「平和の輪」を広げることが出来たと思います。私はたとえ道端の小さな花であっても、これからも平和の花を咲かせて行こうと思えます。

絵画 高校生 内堀 美瑠

私たちは平和を祈ることで世界中が一つになることを願っています。平和な社会への想像力を失ってはけません。自分本位の利益、正義を貫くだけでなく互いを認め合い尊重し、平和とは何かを多くの人が考え小さな行動を起こした時、次第に広がり、人種を超え、国をも超え、その先には今よりももっと素敵な世界が待っているのではないのでしょうか。ぜひ平和を願って作られた数々の作品から作者の願いと祈りを感じ取っていただきたいです。

東京から 遍行



「祈りはどこへ行くのか」
ガザの笑顔が見たい。この思いから作品が生まれた。経済的拡大を最優先すればそれに応じて私達の苦しみは増大し、多くの命を見殺しにして厭わない。ここ広島からアートを最大化し、世界中の笑顔と繋がりたい。

ホームページができました!

<https://www.hiroshima-peace-art.com/>



最新のお知らせや過去の会報をお届け!

広島平和美術協会